

機構では、毎年度助成事業の評価を行う中で、特筆すべき効果が見られた事業や、独創性がありユニークな事業で、広くご紹介すべきと思われる事業を選び、公表しております。

次のページ以降では、平成 23 年度社会福祉振興助成事業の中から、ヒアリングを行った結果、特に優れた助成事業として認められた事業について、みなさまにご紹介します。

事業概要、事業の成果等をはじめ、外部有識者による評価に関するコメントについても掲載しておりますので、ぜひご覧いただき、今後の活動や事業展開の参考にいただければ幸いです。

独立行政法人福祉医療機構 助成事業部

地域連携活動支援事業（第2次助成分）

助成テーマ：地域や家庭における子ども・子育てに関する事業

特定非営利活動法人 Do Tank みやぎ地域政策研究行動会議

『東日本大震災復興自立子育て支援事業』

【助成金額：6,527千円】

事業概要

震災の影響により被害を被った宮城県石巻市、東松島市地域において、被災した子育て中の家庭が置かれている現状に対し、被災家庭のニーズを把握したうえで、未就学児童及び小中学生とその保護者を対象とした定期的な託児サロン、学習支援、遊び広場の実施などのさまざまな活動を行い、地元の子育て支援団体と連携しながら、子どもの健全育成と自立した教育環境の向上を図った事業です。

事業の内容

被災された子育て家庭の支援ニーズを調査したうえで、当該団体を中心とした連携7団体がそれぞれの得意分野とネットワークを活かし、託児、遊び広場、音楽、学習支援、傾聴とセラピーなどの活動をそれぞれの連携団体が担当し、石巻市、東松島市内の各仮設住宅団地の集会所や公共施設などで、定期的な子育てサロンを展開（延べ1,304名の子育て家庭に支援）されました。

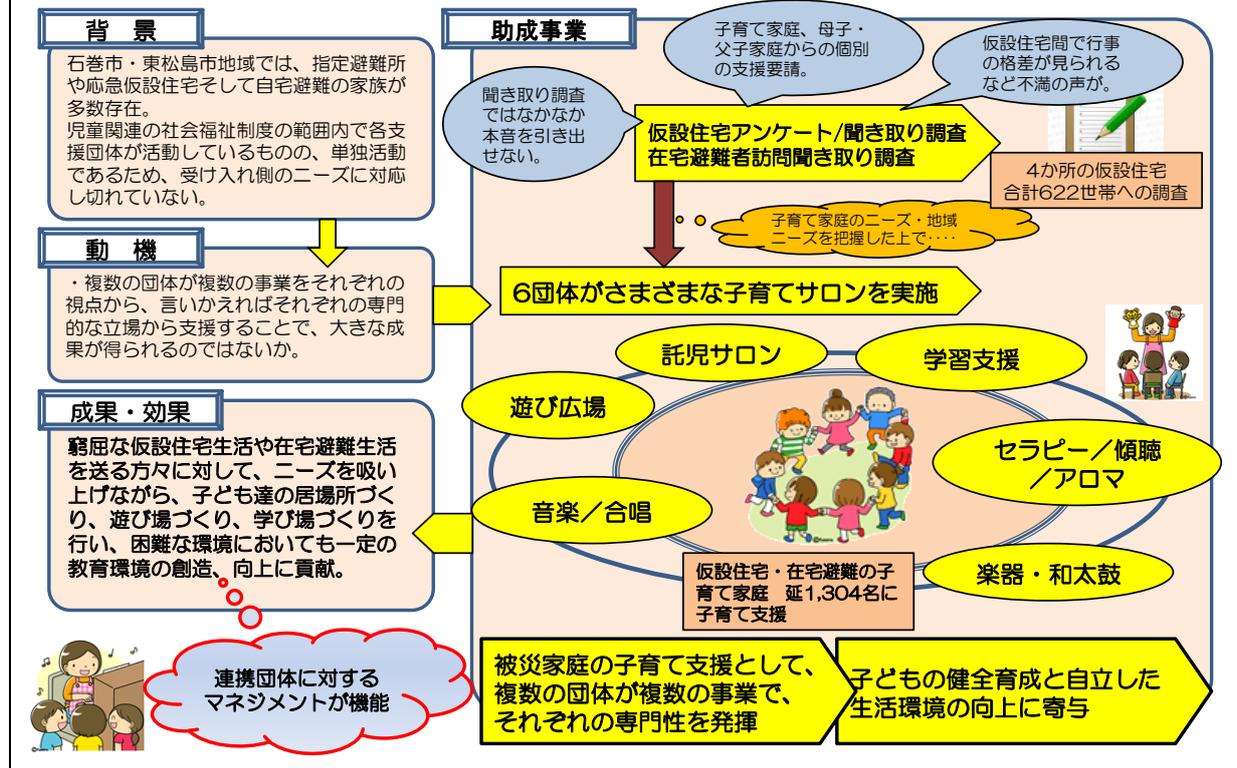
事業の成果等

子育て支援という枠組みのもと、事業者単体ではなかなか実施が難しい支援も、複数の団体が連携することによって、多種多様な子育て支援のサービスが提供できています。事業の目的を達成でき、総じて、仮設住宅団地内のコミュニティの再生、創造に寄与することができた事業です。

また、それぞれの開催当日には参加者の方々が自発的にお手伝いくださったこともあり、同じ会場での継続開催が、住民の皆さんの積極性や震災後の新たな交流を生み出すことにつながっています。



特定非営利活動法人Do Tankみやぎ地域政策研究行動会議
「東日本大震災復興自立支援子育て支援事業」 【助成金額 6,527千円】



外部有識者のコメント

派手さはないが、視点のしっかりした、専門性も高い取組みであったという印象である。
被災地支援を一過性に終わらせることなく持続させるには、支援活動を街づくり活動、地域づくり活動の文脈に乗せることが大事だが、この取組みはその点でしっかりした枠組みを持っていた。援助活動の限界についても自覚的で、連携についても積極的である。
今後にも期待したいが、報告書はそれに見合う具体性が十分でないように思う。特に支援を必要としている子どもたちの活動の具体とその効果等が十分に明らかになっていないことが残念であった。
しかし、一貫した冷静な姿勢は評価に値すると思われる。

お問い合わせ先



〒986-0824 宮城県石巻市立町2丁目5番地41号
特定非営利活動法人Do Tank みやぎ地域政策研究行動会議
TEL 080-3198-4889 (担当: 遠藤氏) e-mail: je981002@cocoa.ocn.ne.jp
HP <http://www6.ocn.ne.jp/~eco/DoTank.html>

地域連携活動支援事業（第1次助成分）

助成テーマ：貧困対策等社会的支援（福祉的支援）を行う事業

特定非営利活動法人 ビッグイシュー基金

『若者ホームレス支援ネットワーク立上げ準備事業』

【助成金額：6,246千円】

事業概要

貧困が深刻化し、20代、30代の若者ホームレスとその予備軍が増加しているという現状に対して、若者ホームレスの自立支援のためのネットワーク構築を目的として、若者の自立支援領域に携わっているさまざまな分野の支援団体が連携し、“若者ホームレス自立支援ネットワーク会議”を開催する事業です。

事業の内容

リーマンショック後、20代、30代の若者がホームレスとなってやむを得ず支援を求めるケースが急増しています。当該団体では、そうした若者と向き合う中で、いったんホームレス状態になってしまった若者が、その状態を抜け出し、再び社会の担い手として社会復帰するためのサポート体制が少ないことを痛感し、より多くの支援者や団体の協力のもと、この問題に正面から取り組む必要性を感じておられました。

今回の助成事業では、若者支援や障害者支援、児童養護施設出身者の支援など、ホームレスになりやすいと思われる分野で若者を支援する専門家に、ホームレス問題の現状を知っていただき、ともに問題解決に取り組めるようなネットワークの構築を目指されました。

そのために、まず、ホームレス支援や若者支援に関する有識者による「若者ホームレス支援ネットワーク委員会」を構成し、若者ホームレスの置かれた課題及び彼らを支援するために必要な社会資源を把握し、今後のネットワーク構築のあり方について検討されています。

また、若者ホームレス支援のために周辺団体とのネットワーク構築を図り、この問題についての情報発信を目的として、若者ホームレス支援ネットワーク会議を計3回開催されました。3回目は一般市民の方々にも参加を募り、約200名の支援者・当事者・関係者が関わり議論する場となりました。そこで共有された問題意識や課題、有効なアクションなどを、市民的・社会的な意思としてひとまとめにし、「若者ホームレス白書2」として、3月末に発行（15,000部）、団体ホームページにも全文を掲載されています。

事業の成果等

異なる分野で活動する団体が、実は地続きの問題と深く関わっており、ネットワークを組むことでより良い支援が可能になるという気づきを共有でき、「今後の活動へのヒントを得られた」という声が上がっています。マスコミ等でも取り上げられ、会議に参加した多くの一般市民の方々からも問い合わせが寄せられるなど、問題解決への裾野を広げることができています。

特定非営利活動法人ビッグイシュー基金

「若者ホームレス支援ネットワーク立上げ準備事業」【助成金額6,246千円】



課題

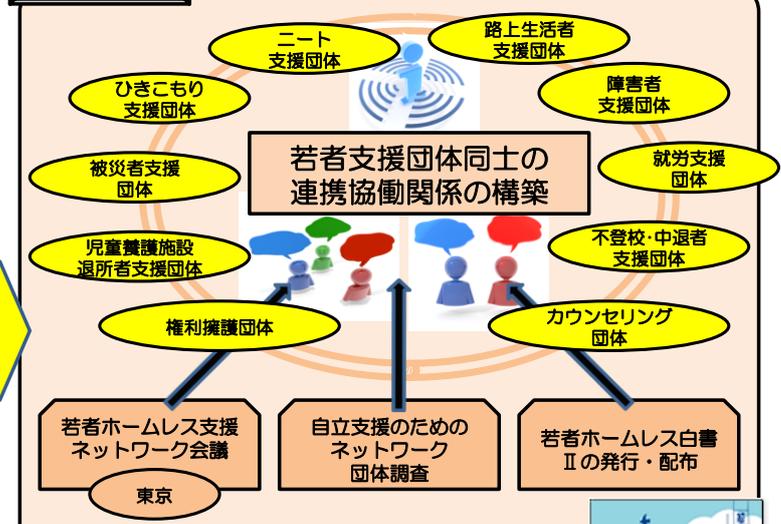
- ・国内で20代、30代の若者ホームレスが増加。並行して、ひきこもりやニートなどの若者150万人が就業できない状態が続いていること。
- ・行政やNPOの支援は、ニート／ひきこもり／ホームレスの状態別の対応となっており、必ずしも十分な状態とはいえない。

動機

個々の若者支援団体の活動には限界あり

- ・若者ホームレスの「予防」に向けたネットワークが存在していない。
 - ・アウトリーチに時間を割けない。
 - ・団体のテリトリーを超えられない。
 - ・状態に応じた最適な支援を提供できない。
- ・これまで面識のなかった若者支援団体同士がネットワークによりつながることで、当事者の若者にとって最短で最適な支援を見つげられるのではないかと。

助成事業



事業の成果

東京・神奈川・千葉の26団体によるネットワーク構築により、団体同士の横断的な連携協働の体制を構築！

心的ケア → 住まい → 居場所 → つながり → 就労支援 → 社会への普及啓発 など

若者ホームレスの状態に応じたさまざまな支援が可能に！



外部有識者のコメント

社会的に十分に認知されることの少ない若者のホームレス支援を取り上げ、この問題の解決のために中長期的な視点に立って、ネットワーク立ち上げの準備作業を始めたことの意義は高く評価される。特に、これまでばらばらに活動して連絡調整の少なかった支援者団体の有機的な結合によって、それぞれの団体に欠けていた機能を補うことができる手掛かりを得たものと判断される。

本事業が高齢者ホームレスと違い、社会的に注目されない若年ホームレスの問題を可視化するための一歩とはなったと思われる。

なお、申請書で被災地との関連について記してあったが、この点がプレゼンテーションで十分説明がなかったのはやや残念である。ただ、それを考慮に入れても、全体的に高く評価できる成果を上げている。

お問い合わせ先



〒162-0065 東京都新宿区住吉町8番5号 シンカイビル 201号室

特定非営利活動法人 ビッグイシュー基金（東京事務所）

TEL 03-6380-5088 HP <http://www.bigissue.or.jp/>